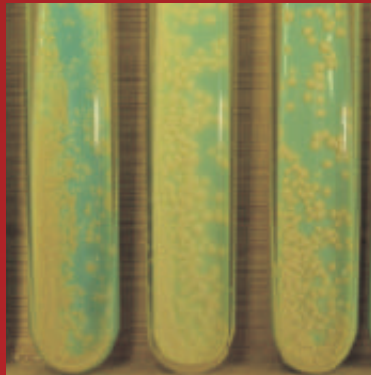


結核研究所

ごあんない



所長挨拶



財団法人結核予防会結核研究所

所長 石川 信克

結核研究所は、1939年の設立以来70年にわたり、日本および世界の結核対策を支えるための研究と人材育成を使命として活動してきました。設立当時、国民の間で猛威を振った結核は著しい改善を来しましたが、その中で当結核研究所は、様々な研究や技術の開発、国および地方公共団体に対する新しい政策の提言、対策に関わる人材育成、情報発信、国際協力など、他の機関ができない重要な役割を果たしてきました。

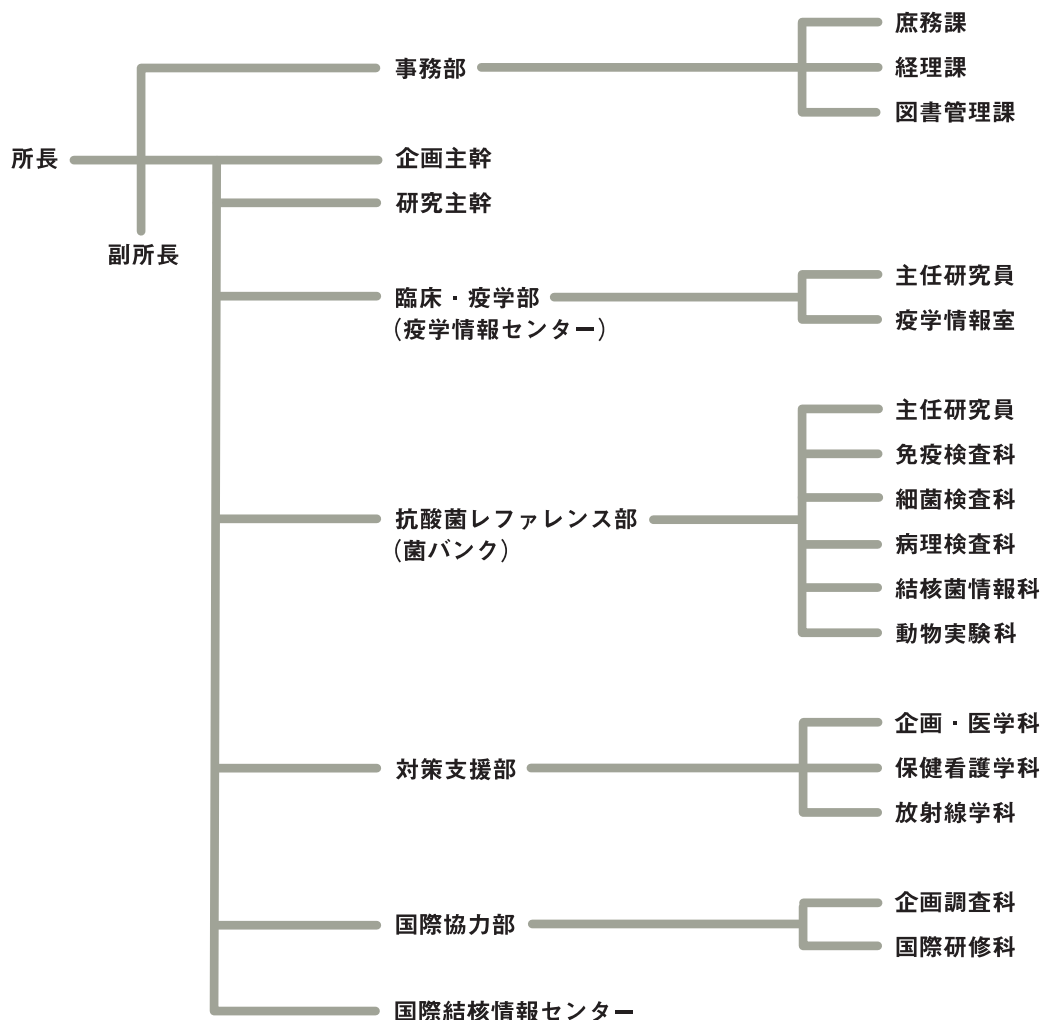
結核の流行を日本より早く経験し、低まん延になった欧米先進諸国でも、現今、問題が解決したわけではなく、移民や社会的弱者の発病増加、HIVや糖尿病などの結核発病を促進する合併症など、様々な対策上の課題を抱えています。結核は、発生数が減っても火種が社会の中で長く残り続けるため、公衆衛生の危機管理上おろそかに出来ない対策課題として捉えられています。わが国の結核は、欧米諸国より30年以上遅れた中まん延状態にあり、高齢者の結核が半数を占め、合併症や治療の場所や方法が複雑化し、都市部での若年者に流行の小ピークもあります。1万人以上が感染性の高い塗抹陽性患者として発病しており、学校・職場などでの思いがけない集団感染事件や、多剤耐性患者・超多剤耐性患者の発生など益々看過できない課題も出てきています。

日本の結核が低まん延移行期になりつつある現在、当研究所は外部評価の提言を取り入れ、結核菌検査・保管施設（菌バンク）や疫学情報センターの設置など、低まん延化（罹患率人口10万対10以下）を促進するための研究体制強化を狙った組織改編を行いました。新しい診断法や分子疫学の新技术を用いた感染経路の分析、新薬・新治療法の開発も行われています。国際協力の分野では、特に2000名を超える人材育成の実績は世界的にも高い評価を得ていますが、世界的な取り組みや国際的共同研究なしには、自国の結核制圧もありえません。そのため、結核研究所は、国内外の大学・研究機関との連携を強化するとともに、タイ、フィリピン、ザンビアを始めいくつかの途上国に分室を設置し、現場での研究課題にも取り組んでいます。今後とも皆様のご理解、ご協力、ご支援を頂きながら、地道な活動を続けていく所存です。

沿革

- 1939年 5月（昭和14年） ● 皇后陛下の令旨を賜り、秩父宮妃殿下を総裁と仰ぎ、財団法人結核予防会が設立される
- 1939年11月（昭和14年） ● 結核研究所が東京府下北多摩郡東村山村野口の保生園（現新山手病院）に開設される
- 1943年11月（昭和18年） ● 結核研究所が東京府下北多摩郡清瀬村大字清戸（現所在地）に移転
- 1947年11月（昭和22年） ● 結核研究所付属療養所（現複十字病院）開設
- 1948年 2月（昭和23年） ● 第1回結核専門家国内研修開講
- 1953年 （昭和28年） ● 第1回結核実態調査実施
- 1954年 9月（昭和29年） ● 第1回「結核の統計」発行
- 1958年 4月（昭和33年） ● 臨床部分離（現複十字病院）、ほぼ現在の機構となる
- 1963年 6月（昭和38年） ● 第1回国際結核医師研修開講
- 1973年 9月（昭和48年） ● 第22回国際結核会議開催（東京）
- 1982年 8月（昭和57年） ● 世界保健機関（WHO）研究協力センターに指定
- 1988年 4月（昭和63年） ● 国際協力部設置
- 1992年 4月（平成 4年） ● 国際結核情報センター設置
- 1995年 2月（平成 7年） ● 第1回アジア地域エイズ専門家研修開講
- 1999年 3月（平成11年） ● 組織改編（対策支援部設置）
- 2003年 4月（平成15年） ● 組織改編（研究部と抗酸菌レファレンスセンター設置）
- 2008年 9月（平成20年） ● 組織改編（臨床・疫学部とリファレンス部設置）

組織図



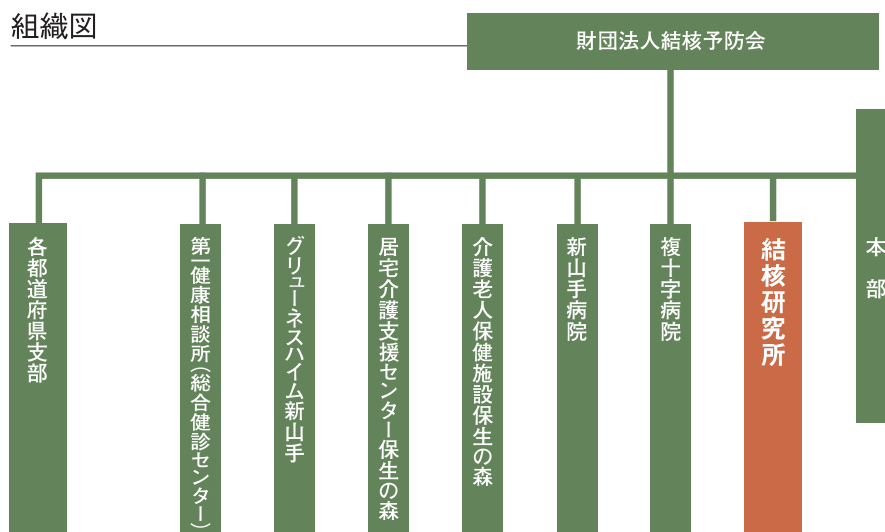
(2008年9月現在)

財団法人 結核予防会 とは

財団法人結核予防会は、昭和14年に内閣総理大臣に賜った皇后陛下（香淳皇后）の令旨を奉戴し、閣議決定により設立された公益法人です。総裁秋篠宮妃紀子殿下のもと、結核を中心に、肺がん、その他の呼吸器疾患の予防事業、調査研究及び国際協力等を行っています。

結核研究所は財団法人結核予防会の1事業所として、研究・研修・国際協力等の事業を担っています。

組織図



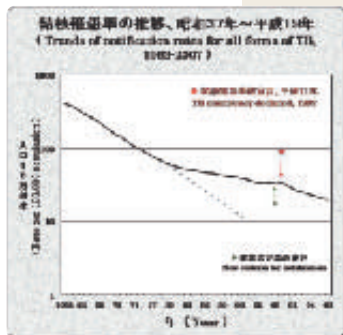
本部所在地: 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL 03 (3292) 9211 (代)
URL <http://www.jatahq.org>

2008年9月の組織改正に伴い、旧研究部から臨床および疫学研究と結核サーベイランスの部署が一つのグループとなって、臨床・疫学部となりました。

臨床から疫学までの幅広い研究活動

研究面においては『日本の結核対策に寄与する研究』を旨としており、臨床研究や分子疫学研究から、疫学研究・結核対策における制度の研究や調査・結核対策支援ツールの開発等にいたるまで、幅広い研究活動を行なっています。

結核罹患率は1980年頃から減少傾向が緩慢になり、結核緊急事態宣言が発動された1999年には上昇(人口10万対34.6)に転じた。その後は、結核対策の強化等により減少に向かったが、近年再び減少速度が低下している(2007年19.8)。



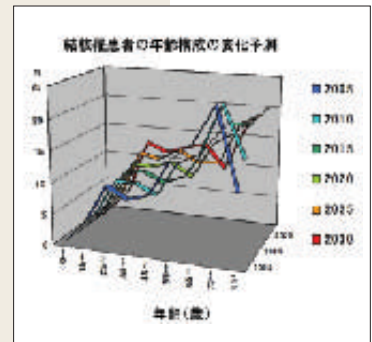
全体に女性より男性の新登録患者数が多く、特に45～64歳の年齢層で多い。これには社会的要因として、ハイリスクの職場環境やホームレスなど生活困窮者からの発病の影響が考えられる。

疫学情報室と情報センターの新設

また従来どおりの臨床研究や疫学研究等の研究機能と共に、日本の結核疫学統計の実務を行なう結核サーベイランス部門として疫学情報室が新設され、以下の重要な実務を担っています。

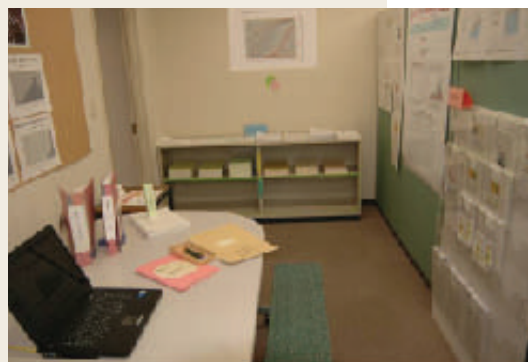
- ① 国の結核登録者情報システムの構築・運用の支援
- ② 月報・年報からの情報の集計解析
- ③ 「結核の統計」の作成
- ④ 結核管理図・評価図の開発ならびに作成

疫学情報室の新設に伴い、結核サーベイランスを主な情報源とした結核疫学の情報提供サービスを行なう疫学情報センターも開設されました。疫学情報センターは、国の結核サーベイランス事業に深く関わり、そこから得られる情報の集計・解析結果をWebや展示室を通して広く社会に還元するという役割を果たすとともに、日本の結核疫学状況の分析や結核対策評価の研究等を行っています。



2030年までの結核発生の将来予測によると、高齢者への偏在が進む一方、若い年齢層の割合も相対的に増加することが推測された。

臨床・疫学部は、臨床疫学研究および結核サーベイランスの両面から結核対策の科学的根拠を提供する部署として、また各地域の結核対策を支える疫学情報の提供サービスを行なう部署として、日本の結核制圧に向けて対策に貢献していきたいと考えております。



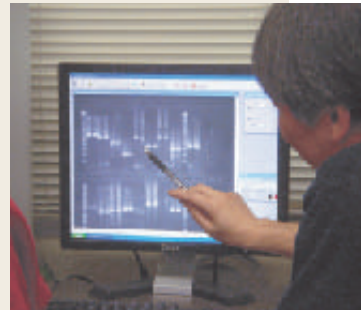
疫学情報センター展示コーナー
結核疫学に関する最新の情報と資料文献等を展示しており、希望者への研究報告書や資料の配付も行っております。

抗酸菌レファレンス部

抗酸菌レファレンス部は、免疫検査科、細菌検査科、結核菌情報科、病理検査科、動物実験科の5科および主任研究員で構成されています。当部は、結核を始めとする抗酸菌に起因した感染症の基礎研究を推進し、他部との協力体制の下で基礎と臨床の両面から結核撲滅に向けて様々な課題に取り組んでいます。同時に研究の一環として、抗酸菌に関する諸検査の受託事業も行っています。

結核専門機関としての基礎研究

結核対策に直結する研究課題に重点を置いています。基礎研究の分野では、新しい結核感染診断法（QFT-2G）が有する課題に関する研究や、結核迅速診断法、結核菌薬剤感受性検査法或いは、反復配列多型（VNTR）法による標準型別法の開発研究を行っています。同時に結核発病因子の解析を基にして新抗結核薬の開発研究や抗結核薬のPK/PD等を行っています。また、平成20年には附属施設として結核菌検査・保管施設（通称菌バンク）を設置し、結核菌標準株や国内外から集められた臨床分離株、非結核性抗酸菌株を保管しています。



RFLP(上) VNTR(下)。結核菌の菌株間の遺伝子配列の違いを用いて分類する検査法。この方法により、集団感染の原因菌が同一か、それとも別個かが判明する。



研究に伴う検査受託

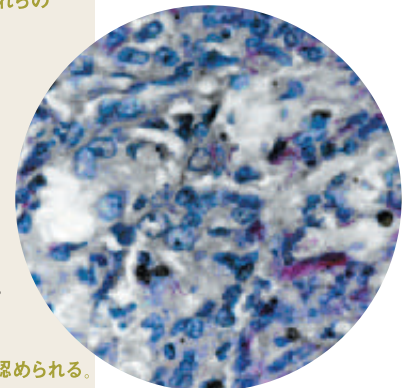
一般検査センターでは実施不可能な高度な検査を、研究の一環として実費受託しています。受託項目は、QFT-2G検査、結核菌薬剤感受性検査、抗酸菌の同定、結核菌遺伝子の塩基配列解析、RFLP、病理組織診断、抗酸菌分与等です。

検査を受ける方の血液に結核菌に特異的な抗原を作用させることにより、結核感染の有無を診断するクオンティフェロン検査。BCG株やMACにない抗原を用いるため、それらの影響を受けずに診断することができます。

共同利用施設である動物実験施設

当施設は共同利用施設で、結核感染実験が可能なP3レベルの動物実験施設です。本施設ではラット、マウス、モルモット、ウサギ等を用いて結核発病の機序や免疫機能の解析、ワクチンや新抗結核薬の開発研究など様々な研究を行っています。

動物を用いた結核菌誘導肉芽腫の顕微鏡写真。Ziehl-Neelsen染色で赤く染まった結核菌が多数認められる。



対策支援部

対策支援部は、企画・医学科、保健看護学科、放射線学科の3科からなり、国、地方自治体、医療機関等が行う結核対策に対する技術的支援を担っています。当部は、研修による人材育成、相談対応等による対策支援、社会への普及・啓発活動を活動の柱としています。



公衆衛生学会の集団感染事例に関する自由集会

国内唯一の結核対策人材育成機関

これまでに医師・保健師・看護師・診療放射線技師・事務担当者など多岐にわたる結核対策従事者に、研修や技術支援を行ってきました。医師研修では、保健所における結核対策を中心とした公衆衛生医向け研修コースと結核の診断治療を主とした臨床医向けの研修コースを実施しています。保健師・看護師研修では、結核患者の服薬支援方法(DOTS:直接対面治療)、接触者健康診断、事例検討会などが研修の主な内容です。診療放射線技師研修では、胸部X線写真の精度管理の実習や結核の画像診断の講義などが行われます。事務担当者の研修では、結核サーベイランスの事務や特対事業検討会が行われます。毎年総参加者数は2000人を上回り、修了者は地域の結核対策に貢献しています。また、研修を通して築かれた修了者の全国的なネットワークは、結核対策の大きな推進力となっています。

セミナーや相談への対応を通じた対策支援

毎年、新しい施策や技術の周知と関係者の経験交流・相互啓発を目的として、地区別講習、国際結核セミナー、結核対策推進会議、集団感染事例に関する自由集会などを開催しています。また、地方の研修や集団感染対策会議に対する専門家派遣や、メール、電話、FAX等による相談対応を通じて、地域の結核対策の推進に貢献しています。



公衆衛生学会における研究発表

普及・啓発活動

日本公衆衛生学会総会において、結核および結核対策に関する最新情報のブース展示を行っています。また、ホームページでは、各種の教材(DOTS、外国人結核、HIV感染合併結核、接触者健診、BCG等)を掲載して、現場に役立つ資料の提供に努めています。

「DVD:結核!?でも心配しないで」より



国際協力部

国際協力部(企画調査科・国際研修科)は、結核分野の国際協力を結核予防会国際部や他の部署と協力して行っています。主に開発途上国を中心とした結核対策推進のための技術支援、研修、研究や、国際機関等との連携、国際情報センター等の活動を実施しています。

結核対策(DOTSを含むストップ結核戦略)推進のための技術支援と研究

途上国の結核対策システムの導入や普及のため、医師や検査技師などの専門家派遣、助言や技術指導により、プログラムの計画から評価に渡る支援をしています。対策の支援は、国際協力機構(JICA)の結核対策プロジェクト、外務省NGO連携無償資金協力、結核予防会、USAIDによる結核対策支援プログラムなどを通して行なわれます。また、開発途上国の結核問題の改善を目的とした研究活動も積極的に行ない、研究手法を用いたプロジェクト評価も試みています。さらに、国際結核情報センターでは、アジアを中心とした各国の結核情報の収集と分析を行ない、定期的に英文ニュースレターの発行を行なっています。

研修による人材育成

1963年より国際研修を行なっています。現在は、結核及びエイズの対策担当者を対象にした、3つの集団研修コース(ストップ結核アクション研修、DOTS拡大のための結核菌検査コース、アジア地域エイズ専門家研修)と、個別研修を行なっています。将来結核分野で国際協力を担う日本人専門家を養成する為の研修も行なっています。これまでに97カ国、2000人以上の研修生の育成を行なってきました。

国際機関との連携

世界保健機関の協力組織として、ストップ結核パートナーシップや国際結核肺疾患予防連合のメンバーとなり、対策指針作成及び調査・研究等の活動に参加しています。また、2005年からは結核対策技術支援連合、2008年からは世界結核技術支援ネットワークのメンバーとして、世界規模の技術支援に参画しています。



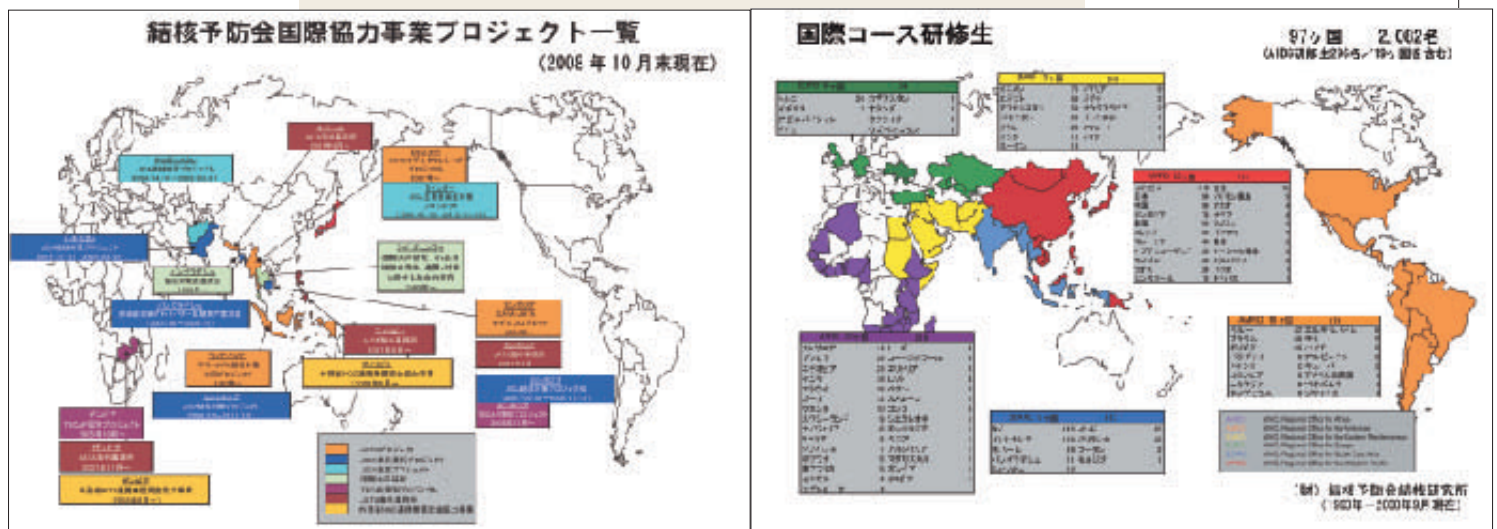
地域の人々に結核に関する啓蒙活動を行うボランティアと医療従事者(ザンビア)



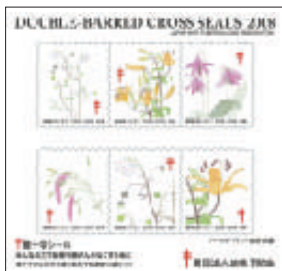
国際結核対策細菌検査マネジメントコースにて結核菌検査の技術を学ぶ研修生

結核予防会国際協力事業プロジェクト一覧

これまでの国際コース研修生数



「複十字シール募金」にご協力ください



結核は「過去の病気」ではありません。複十字シールは、結核や胸の病気をなくすための募金にご協力くださった方へお配りしています。結核予防会は、特定公益増進法人の認定を受けており、所得税・法人税の控除対象となり、個人の方で50万円以上、法人様で100万円以上の募金をいただけますならば、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下より感謝状の贈呈がございます。

複十字シール募金は、国内外の結核治療・予防に目に見える形で生かされています。

募金・シールの
お申し込みは

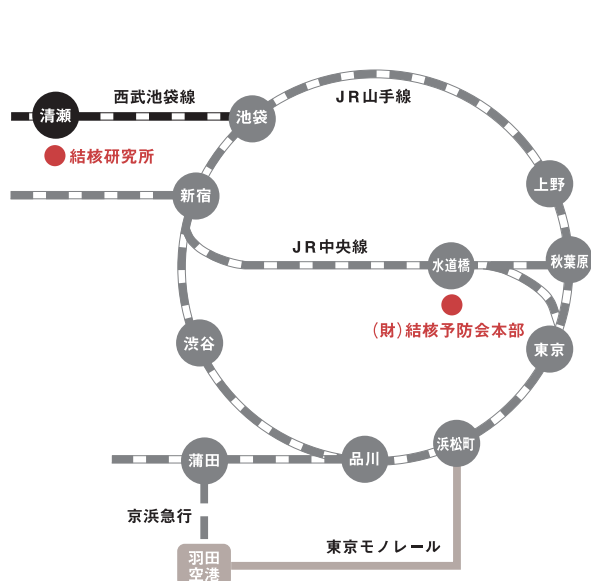


財団法人結核予防会 本部事業部資金課
シールはろうよ

☎0120-416864

<http://www.jatahq.org/seal/framepage1.htm>

所在地



- 池袋駅から清瀬駅
池袋駅から西武池袋線にて清瀬駅下車。
急行の場合は、「ひばりが丘」駅で乗り換え。
- 清瀬駅から結核研究所
徒歩：清瀬駅南口から徒歩15分。
バス：清瀬駅南口バス乗り場②から「複十字病院」下車。
②番乗り場のすべてのバスが「複十字病院」を経由します。
タクシー：南口タクシー乗り場より結核研究所まで5分程度。



RIT
THE RESEARCH INSTITUTE
OF TUBERCULOSIS, JAPAN

財団法人結核予防会 結核研究所

WHO指定研究協力センター

〒204-8533 東京都清瀬市松山3-1-24
tel.042-493-5711(代) fax.042-492-4600
URL <http://www.jata.or.jp>